「薬草を楽しむ」　No.052

タイザンボク

牧　　幸　男

タイザンボクの植物名を聞くと、私は立派な木を想像する。名は体を表すと言うが、この木は名前と樹勢が一致しているからだろう。私の生家にこの木があり、父が大切にしていたことを思い出す。毎年艶やかな緑の葉を繁らせ、大きなすばらしい真っ白な花を咲かせていた。芳香を放つ大きな花は、何か東洋的な雰囲気を漂わせ、王者の風格を感じていた。いつ頃植えたか父から聞きそびれたが、日本特産の木とばかりと思っていた。

以前、スイスのレマン湖の東端に建つ「シオン城」を訪れたことがあった。いつに日かこの地を訪れたいと思っていた。理由は学生時代よく口にした与謝野鉄幹作詞の「人を恋ふる歌」の一節

あゝわれコレッヂ*の奇才なく　バイロン、ハイネの熱なきも　石を抱きて野にうたふ　芭蕉のさびをよろこばず

に登場するバイロンが詠った「シヨンの囚人」の詩のことをなんとなく覚えていたからである。若い多感な頃である。叙事詩に詠われたシヨン城はレマン湖に突き出た岩盤の上に立っており、スイスで最も美しい城と言われている。周辺の山や湖に映え、強く印象に残っている。

注＊：私は「ダンテ」と歌っていた。

蛇足だが、ロート製薬の当時の山田安民社長が胃腸薬の販売名をシロンにしたのは、シオン城の美しさに感銘して名付けたと言われている。私は心に残ったシオン城を後にした時、大きな白い花をつけた泰山木に出会った。それまで、泰山木は日本特産の植物と思っていただけに、外国の地で見たことに驚き、帰国後この植物について調べ、日本特産でなく、北アメリカ原産であることを知った。泰山木は明治6年（1873）に日本に渡来したモクレン科の常緑高木で、新宿御苑に植えられたのが始まり。日本の気候風土に適応し、丈夫に育ったため急速に普及した。樹高は20m以上に成長し、庭園や公園、街路樹などに良く植えられている。幹は直立、分枝し葉が密生し大型で長さ20㎝ぐらい、革質で表面はなめらかで光沢があり、裏面は鉄さび色（時には緑色）で密毛がある。初夏、直径15～20㎝もある白色の大形の盃形の花を開き芳香を放つ。花は通常9弁で、最外片が最大である。雄蕊は多数あり、花糸は紫色である。袋果は成熟すると開

タイザンボクの蕾

タイザンボクの袋果

裂して赤色の種子を2個放出する。この木は、幼木の時は花を付けず、大木なってからは咲きだす。特徴は春から初夏にかけて、古い葉が黄色や黄褐色になり、地上に落ちた葉は褐色になる。花期は初夏であるが、品種によっては10月まで咲く種もある。泰山木は上品で風格のある事から、現在30～40種の園芸品種が生まれている。主な品種は、

・**タイサンボク（リトルジェム）** M. grandiflora ’little gem：矮性で、開花時期は晩春から夏

・**ヒメタイサンボク** M.virginian Linn.：基本種より樹高も花も一回り小さく、昭和初期に渡来 初夏に咲く花には甘い香りがあり、庭木や鉢植に人気がある。

・**ヒメタイサンボクマッティ メイ スミス** Magnolia virginiana var.australis ‘Mattie Mae Smith’：常緑の斑入り品種で樹高5～10m 程度。四季咲きである。

泰山木の特徴は強いアレロパシーAllelopathy（他感作用）があることが知られており、他の植物の発芽や成長を抑制するため、タイサンボクの樹冠下では植物が少ないことがある。

原産地のアメリカでは、南部を象徴する花木とされ、ミシシッピ州とルイジアナ州の州木に指定されている。特に、ミシシッピ州は、州内に泰山木が多いことから、Magnolia State という愛称があり、州旗にも用いられている。

宮沢賢治(1896～1933)の短編に『マグノリアの木』(1923)がる。仏教の教えに基づいて書いたものとされているが、サンタ・マグノリアやセント・マグノリアの言葉が、記述されている。驚くのは、マグノリアの渡来時期が 1873 であるから、この木を短編にした彼の知識欲は驚くばかりである。

詩歌の対象になるのは、渡来時期から、明治以降である。

泰山木は　もろき花かも　留守の間に　花芯を残し　こぼれ落ちたり　　藤沢古実

昂然と　泰山木の　花はたつ　　高浜虚子

植物名について牧野富太郎博士は「大盞木、大山木、または泰山木を宛てるが、花や葉が大きいので称賛して付けたのだろう。また、別名の白蓮木は花の形がハスのようであるから。これ等は漢名ではなく、漢名は洋玉欄である。」と述べている。又、泰山木の泰山は中国の山東省の五嶽の一つである泰山の原産かと思われる方もいるが、高貴な花の様子を、この霊山にたとえたものと言われている。漢字を「大盞木」と書くこともあるが、盞（さん）の字は「さかずき」の意もあり、花の形からこの字が使われたが、後に「泰山木」の字を当てるようになった説もある。別名に、ダイサンボク、ハクレンボクがとも呼ばれている。その他、この植物の渡来初期常盤玉蘭（ときわぎょくらん）と呼ばれていたが、明治 12 年にアメリカのグラント将軍夫妻が来日した時、花の大きさからグラント玉蘭の名で呼ばれたことがあった。グランドとは雄大という意味があり、勇壮、雄大の意味から泰山木の名になったとい言われている。

タイザンボクの杯型の花

学名は、Magnolia grandiflora で、属名はフランスの植物学教授 Pierre Magnol にちなみ、種小名は大きな花の意で、花の姿による。

薬用は、葉を高血圧や鼻詰まり、蕾を花粉症、頭痛に、樹皮は健胃、鎮咳作用、腹部膨満感や消化不良、便秘、嘔吐、咳等に用いる。また、体の気の巡りを良くし、精神的な要因で起こる梅核気といわれる症状（喉に物が引っかかったような違和感）、ストレス性胃潰瘍などに使用する。

泰山木の花の香りは、上品な甘みと柑橘系の爽やかさをミックスしたようなとてもよい香りがあるため、以前香料の原料としても利用されていた。最近は収量が少ないため、モクレン科のホワイトチャンパカ Michlia champaca（銀厚朴）から採取するようになっている。

木材は、良質で柔らかいが狂いが少ないので、建具や漆器の木地、製図版、ピアノの鍵盤等の用途がある。また、大きな葉は、料理を載せたり、包んだりする材料になる。

花言葉は「自然の愛情」、「前途洋々」、「威厳」等である。